

## 論述ブースト No.13

## 終末期医療・緩和ケアを論じる

## —— QOL・本人の意思・家族支援を3軸で整理

**目標：**終末期医療・緩和ケアというテーマを「患者のQOL（生活の質）・本人の意思（アドバンスケアプランニング）・家族支援（グリーフケア）」の3軸で構造的に論じる力を養う。「延命 vs 緩和」の二項対立を超えた論証を目指す。

## 授業の仕掛け（直感への衝撃）

**導入：**「末期がん患者には最後まで積極的治療を行うべきですか？」→「本人の意思による」と答えても論証できない生徒が多い。QOL・ACP・家族支援の3軸で構造的に論じることが高評価の鍵。

**核心：**終末期医療の3軸：①QOL（疼痛緩和・尊厳） ②本人の意思（ACP・リビングウィル）  
③家族支援（グリーフケア・意思決定支援）

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— 終末期医療・緩和ケア・QOLで合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

終末期医療・緩和ケア・QOLでは、*QOL・意思・家族支援の3軸根拠*が答案の質を大きく左右します。

## ② 終末期医療・緩和ケア・QOLで採点者が見ているポイント

「QOL・本人の自律的意思・家族支援の3軸を整理した答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所